長野市民新聞　（第三種郵便物認可）

信州のハンサムウーマン

挑戦続ける現代版・新島八重

戊辰戦争で、男装に銃を持って薩長軍と会津で戦った新島八重。後に夫となる同志社大学創立者の新島襄を支え、男尊女卑の時代に信念を曲げず力強く生きた姿は「ハンサムウーマン」と称された。新島八重のように各分野で果敢に挑戦を続ける「信州のハンサムウーマン」を紹介する。

農業　大平芳慧（よしえ）さん（71）＝大岡甲

米作りに励んで国際大会で金賞

昨年秋、米のおいしさを競う「第14回米・食味分析鑑定コンクール国際大会」（米・食味鑑定士協会主催）に「ミルキークイーン」の銘柄を出品し、国内外3915検体の中から栽培別部門で金賞に選ばれた。金賞受賞は一昨年の総合部門を含めて通算4度目。「コンクールのために米を作るわけじゃないけれど、受賞も張り合い」とほほ笑む。

6人きょうだいの長女。18歳のとき、仕事の忙しい父親からリンゴの木80本の果樹園を任され、営農のやりがいと厳しさを学んだ。同じころ、当時の女性としては珍しく普通自動車運転免許を取得。運転技術を忘れないために農作業の合間にパンの配達アルバイトに励んだ。「思い付いたらすぐやる」性格。一方で、夫の嘉久雄さん（77）が旧大岡村の村長や合併後の長野市議を務めると、裏方として支え続けた。

米のコンクールで４度目の金賞を受けた大平さん

転機は2005（平成17）年。参加した農業セミナーで、講師から「ひと握り農業者になれ」との言葉を聞いて奮い立った。良い米を作って、自分で売ろう―。大岡の山あい3カ所にある田んぼ合計約1・4㌶で無農薬栽培を始め、毎朝5時に起きて雑草取りとあぜ草刈りに励んだ。

初めて収穫した有機米は、関西地方のバイヤーに直接売り込んで契約を取った。08年の初受賞後は翌年の収穫米の予約を求める問い合わせが相次ぎ、全国のバイヤーが注目する米農家に。「若いころの経験が今の力になっている」と振り返る。

「今度は私が農業で表舞台に立ちたい」。張り切る妻を、今は夫が朝ご飯を作って支えている。

指導　PGA認定ティーチングプロ